

高松つながっていい友！

8月1日にオープンした「四番丁スクエア」から、市民の皆様にはコミュニティに関する情報を発信しようというトーク番組、「高松つながっていい友！」がスタートしました。

「四番丁スクエア」とは、旧四番丁小学校の南北棟を耐震補強・改修してできた、市埋蔵文化財センター、コミュニティ協議会連合会等事務局、市民活動センター、創造支援センターという4つの施設の総体的名称です。廊下に紹介パネルが展示されている菊池寛や向田邦子、十返肇といった有名人も在籍した歴史と伝統のある旧四番丁小学校が、新しく文化財、コミュニティ、市民活動、ボランティア、産業振興などの分野をつなぐ複合施設として蘇りました。さらに、北側一帯には緑地帯を整備し、江戸時代の高松の水がめである「亀井戸」遺構の復元展示とともに、この地に屋敷を構えていた西嶋八兵衛の功績や、水にかかわる伝説などを紹介したパネル展示を行っています。地域の歴史も学びながら、現代の私たちの生活が、さまざまな形で先人達とつながっていることを確認できる空間となっています。

その「四番丁スクエア」の中の市民活動センターのスタジオからユーストリームを活用して、「高松つながっていい友！」のインターネット動画中継を行います。名称は、テレビ番組の「笑っていいとも！」の吸引力と情報発信力にあやかりたい、という思いでつけられたもの。コミュニティに関する気軽なトーク番組で、人と人との「つながり」を大切にしようと呼びかける内容です。私は、第1回ゲストで出演しましたが、毎回ゲストを招いて、次のゲストを紹介してもらいながら話をつないでいく、という構成となっています。

旧小学校の跡施設には、独特の雰囲気漂います。教室の壁や廊下に子ども達の感情や思いがとどめられているようで、中にいると、不思議な親近感を感じます。人と人とのつながりの大切さを伝えていくのにふさわしい場所だと思います。「高松つながっていい友！」をきっかけに、コミュニティの再生に向けて、さまざまな市民活動がさらに活発になっていくことを期待しています。